

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農業使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報 第4号の要約

平成23年 6月29日発行

岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部

作目	技術の要約
水稲	<p>生育状況: 水稲の生育は平年に比べ2～3日の遅れ。茎数の増加も遅れ気味。</p> <p>大雨対策: 長時間の冠水は、分けつの遅れ、病害発生への恐れがあるため、速やかな排水に努める。薬剤防除は水が引いた後ただちに行う。</p> <p>技術対策: 目標茎数を確保したら、速やかに中干しの実施を。追肥は、各地域の技術情報等を参考にする。幼穂形成期頃から徐々に深水管理を開始し、冷害回避のための水管理を徹底。斑点米カメムシ対策として畦畔の雑草管理を徹底。</p>
畑作物	<p>生育状況: 【小麦】成熟期は平年並み～やや遅れたが刈取間近。【大豆】生育は順調。</p> <p>大雨対策: 冠水した地域では速やかに圃場の排水を図り、圃場が乾き次第、明渠や排水溝の掘り下げ、中耕培土などの作業を。</p> <p>小麦: 子実水分を確認し、適期刈り取りに努める。また、倒伏圃場や品質に問題があるものは刈り分けし、良質な小麦に混入しないよう注意。</p> <p>大豆: 中耕は初期除草剤(土壌処理剤)の効果がなくなり、雑草が発生し始めてから実施。培土は倒伏防止や、根系への酸素供給などに効果がある。培土の高さは収穫に支障を来さないよう一定に。</p>
野菜	<p>生育状況【施設果菜類】生育は概ね順調だが、きゅうりでうどんこ病、トマトで灰色かび病、ピーマンでアブラムシ等の病害虫が発生している。</p> <p>【露地果菜類】定植後の乾燥により生育が停滞した圃場がみられる。</p> <p>【雨よけほうれんそう】強風、乾燥による葉先枯れやケナガコナダニが見られるが概ね良好。</p> <p>【レタス】【キャベツ】春先の作業の遅れで収穫開始に遅れが見られたが、現在は概ね順調な生育。</p> <p>大雨対策: 圃場排水を徹底し、病害の発生・拡大を未然に防止するとともに、草勢回復を図る。</p> <p>果菜類【雨よけトマト】【雨よけピーマン】生育のバランスを保つため適切なかん水、施肥に努める。灰色かび病等の発生がみられるので、換気を心がける。</p> <p>【露地きゅうり】整枝、摘葉により受光体勢を良好に保つ。斑点性病害を対象とした予防散布に努める。</p> <p>葉茎菜類【雨よけほうれんそう】生育中かん水も含めて高温対策を十分講じ、生育停滞を防ぐ。</p> <p>【キャベツ】害虫の発生に注意が必要。【レタス】適期収穫により品質の低下を防ぐ。</p>
花き	<p>生育状況: りんどう、小ぎく共に平年並みの生育となっており、概ね順調。</p> <p>大雨対策: 冠水したほ場では排水対策を図り、病害防除等についてすみやかに対処する。</p> <p>りんどう: 特に昨年問題となったリンドウホソハマキの防除を継続して行う。</p> <p>小ぎく: 適期作業に努めるとともに、病害虫防除の徹底を図る。</p>
果樹	<p>生育状況: りんごでは花芽の数が少ない園地あり。果実肥大は回復傾向。ぶどうは概ね平年並みの生育。</p> <p>りんご: 着果量の少ない園地もみられるが、翌年の花芽形成を促進するため、適期栽培管理を進める。</p> <p>ぶどう: 結実確認後、適切な摘房、摘粒を実施する。</p>
畜産	<p>牧草の放射性物質モニタリング: 遠野市、一関市、陸前高田市、平泉町、藤沢町、大槌町、滝沢村の7市町村の一部エリアで牧草の利用自粛等要請を継続中。</p> <p>牧草: 2番草の刈り取りは適期に、刈り取り高さに気をつけて行う。エゾノギシギシの防除は、結実前に実施。</p> <p>飼料用トウモロコシ: 飼料用トウモロコシは獣害(クマ)対策の準備を。</p>

詳細については「いわてアグリベンチャーネット」をご覧ください。 <http://i-agri.net> (「いわてアグリ」と検索すると上位に表示されます)

- 農薬適正使用: 使用前に必ずラベルを確認し、使用基準の厳守と飛散防止を心がけてください。
- 農作業安全: 事故のないよう、農作業安全に十分留意してください。

次号は平成23年7月28日発行の予定です

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農業使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報 第4号 水稻

発行日 平成23年 6月29日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4435)

携帯電話用QRコード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

- 6月24日現在の水稻の生育は平年に比べ2～3日遅れている。茎数の増加も遅れ気味です。
- 茎数が不足しているところでは、分けつを促す浅水管理を継続し、目標とする茎数を確保したら、すみやかに中干しを実施して根の健全化を図りましょう。
- 幼穂形成期頃からは徐々に深水管理を開始して、冷害回避のための水管理を徹底しましょう。
- 斑点米を発生させるカメムシ類の増殖を防ぐため、畦畔や転作牧草等においてイネ科植物が出穂しないよう管理を徹底しましょう。

1 大雨に伴う事後対策

- 長時間の冠水は分けつの遅れ、黄化萎縮病、いもち病等の病害発生の恐れがあるので速やかに排水する必要があります。雨がやみ、安全を確認できたら、水尻、排水口等のゴミを取り除き排水に努め、葉先が少しでも田面からできるようにします。
- 冠水水温が高いと被害が拡大するので、新しい水といれかえてください。
- 冠水した稲は、稲体が水分を失いやすい状態であることから、田面を急激に干さないようにします。
- 長時間冠水した場合、病害発生のおそれがあるので、水が引いた後ただちに薬剤防除を実施してください。

2 生育概況

6月24日に各農業改良普及センターが実施した水稻の一斉生育調査(23カ所、延べ32品種)の結果、県全体で草丈は平年より2.5cm短い35.7cm、1㎡あたりの茎数は平年比78%の339本、葉数は平年より0.3枚少ない8.2枚となっており、葉数の進捗からみた生育は平年より2～3日遅れています。葉色は平年並に経過しています(表1)。

表1 平成23年生育診断ほの地域別集計表(6月24日現在) 各農業改良普及センター調べ

地帯名	草丈				茎数				葉数			葉色値		
	本年 (cm)	平年 (cm)	平年差 (cm)	前年 (cm)	本年 (本/㎡)	平年 (本/㎡)	平年比 (%)	前年 (本/㎡)	本年 (枚)	平年 (枚)	平年差 (枚)	本年 (SPAD値)	平年 (SPAD値)	平年差 (SPAD値)
北上川上流	33.5	37.7	-4.2	40.6	287	391	73	320	7.6	8.1	-0.5	35.6	41.2	-5.6
北上川下流	36.9	38.8	-1.9	43.2	357	448	80	402	8.4	8.7	-0.3	43.0	41.4	1.6
東 部	32.4	33.4	-1.0	37.7	321	394	81	359	8.3	8.4	-0.1	40.6	40.9	-0.3
北 部	33.1	36.4	-3.3	37.9	358	444	81	372	7.6	7.5	0.1	37.0	36.6	0.4
全 県	35.7	38.2	-2.5	42.1	339	432	78	379	8.2	8.5	-0.3	40.8	41.1	-0.3

注：平年値は原則として平成18年～22年までの5か年の平均値を用いた。

表2 平成23年生育診断ほの品種別集計表（6月24日現在）各農業改良普及センター調べ

品種名	草丈				茎数				葉数			葉色値		
	本年 (cm)	平年 (cm)	平年差 (cm)	前年 (cm)	本年 (本/m ²)	平年 (本/m ²)	平年比 (%)	前年 (本/m ²)	本年 (枚)	平年 (枚)	平年差 (枚)	本年 (SPAD値)	平年 (SPAD値)	平年差 (SPAD値)
いわてっこ	34.2	36.6	-2.4	38.0	316	407	78	325	7.5	7.5	0.0	35.7	36.7	-1.0
あきたこまち	33.3	36.1	-2.8	39.5	297	378	79	350	7.9	8.3	-0.4	39.9	41.9	-2.0
どんびしゃり	36.3	38.3	-2.0	41.9	371	407	91	367	8.2	8.7	-0.5	40.6	40.4	0.2
ひとめぼれ	36.2	38.4	-2.2	43.0	356	470	76	408	8.8	9.0	-0.2	43.2	42.2	1.0

注：平年値は原則として平成18年～22年までの5か年の平均値を用いた。

3 浅水管理の継続で分けつ促進（茎数がまだ不足している圃場）

平年に比べ茎数の増加はやや遅れているものの、目標となる茎数（目標とする穂数とほぼ同数）を確保した圃場も多くみられます。

茎数が不足している圃場では、浅水管理を継続し、分けつの発生を促しましょう。

4 中干しの徹底で根の健全化（茎数を確保した圃場）

目標となる茎数に達したところでは落水し、中干しを実施しましょう。

中干しの効果

- ◇ 土壌の還元化をやわらげる→根の伸長促進・健全化
- ◇ 無効分けつの発生を抑える
- ◇ 地耐力の向上→秋作業の容易化

- 中干しの期間は7～10日程度とし、田面に小さな亀裂が生じて、軽く踏んで足跡の付く程度を目安とします。
- 中干しと同時に溝切りを行いましょう。排水を容易にし、収穫時の地耐力を高めるのに役立ちます。
- 中干し後、一度に深水にすると酸素不足となり根に障害が出ることがあるので、中干し直後は間断かんがいと、その後常時湛水としてください。

5 冷害回避のための水管理

仙台管区气象台が6月24日に発表した東北地方の1か月予報によると、ここ1ヶ月は曇りや雨の日が多く気温は高い見込みですが、これから水稻は低温に弱い時期を迎え、突然の低温に対応する必要があります。

図1を参考にして、冷害回避のための水管理を基本とし、気象条件にあわせた水管理を行ってください。

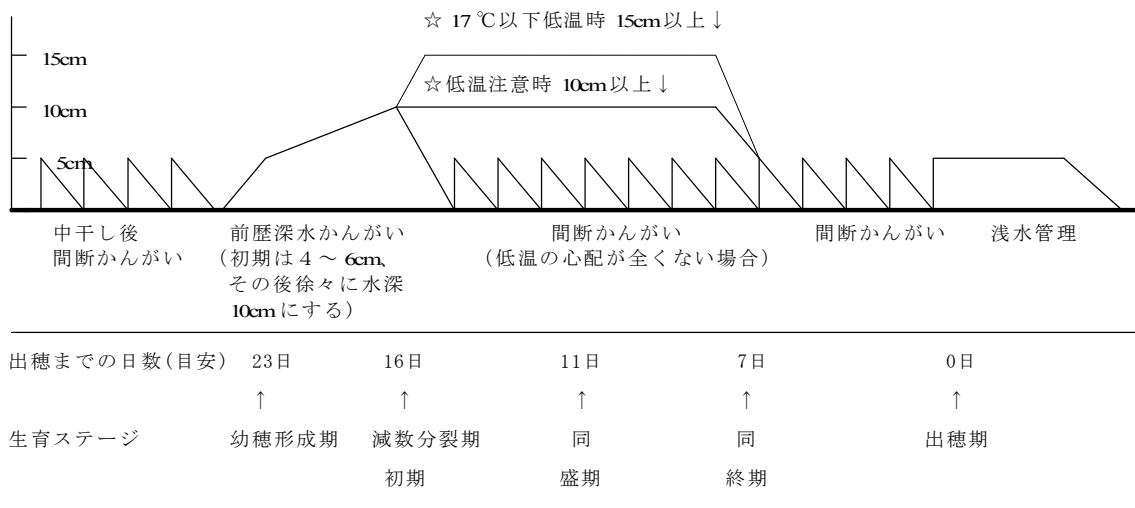


図1 中干し後の水管理の模式図

■ 用水の供給体制の確認

土地改良区等と連携の上、用水の供給体制についてあらかじめ確認してください。

■ 幼穂形成期前後（前歴深水かんがい）

現在の生育は平年並であり、幼穂形成期も平年並と予測されます。

幼穂形成期の数日前から入水して幼穂形成期には4～6cmの深水にします(前歴深水かんがい)。

幼穂を保護することで小孢子（花粉のもと）の分化が促進され、障害不稔を軽減できます。

※ 平年の幼穂形成期

いわてっこ：7月10日頃、 あきたこまち・ひとめぼれ：7月15日頃

■ 減数分裂期前後（深水管理の実施）

少しでも低温が予想される場合は、幼穂形成期の深水管理に引き続き、10cm以上の水深を確保してください。

17℃以下の低温が予想される場合は、15cm以上の深水としてください。

6 追肥

葉色は平年並に経過しています。追肥判断のため葉色の变化に注意が必要です。

良食味米生産の観点から、品種、気象・生育状況をみきわめて、適期に適量を施用しましょう。詳しくは各地域で発行される技術情報等を参考にしてください。

7 斑点米カメムシ類の防除

県病虫害防除所が実施した6月中旬の調査によれば、本年も畦畔や転作牧草のイネ科植物で斑点米カメムシ類が確認されています。

以下により、カメムシ類の増殖源となる畦畔等のイネ科植物の管理を徹底してください。

なお、養蜂活動が行われている地域で殺虫剤を散布する計画がある場合は、養蜂家と協議の上、散布時期を事前に通知するなど、ミツバチへの危害防止に努めてください。

■ 畦畔や転作牧草等のイネ科植物が発生源

斑点米の発生原因となるカメムシ類（アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ）は、畦畔や転作牧草等のイネ科植物で繁殖します。

■ 水稻出穂の15～10日前までに地域一斉に草刈りを実施

畦畔雑草は水稻が出穂する15～10日前までに刈り取ってください。

草刈りは、個別にバラバラな時期ではなく、地域で一斉に実施してください。

■ 水田内の雑草も増殖源となる

水田内にノビエ、イヌホタルイやシズイなどの雑草が多発している圃場では、これらの雑草がカメムシの発生源となりますので、水田内の除草に努めてください。



図2 アカスジカスミカメ成虫



図3 畦畔雑草管理は地域一斉に

8 いもち病防除

(1) 葉いもち

いもち病は気象条件で急激に広まるので、圃場の観察と早期防除を徹底してください。

圃場をよく観察し、発生を確認したら、葉いもち予防粒剤（箱施用剤、水面・投げ込み施用剤）施用の有無にかかわらず、直ちに茎葉散布を実施しましょう。

(2) 穂いもち

穂いもち対象の予防粒剤を散布する場合は、次の点に留意してください。

- ・ 水稻の生育状況に注意する（散布時期を失しない）
- ・ 圃場をよく見回り、葉いもちが発生していたら茎葉散布してから粒剤施用する。
- ・ ストロビルリン系薬剤は耐性菌の発生リスクが高いため、嵐剤を箱施用した場合は、オリブライト剤を本田では使用しない。

9 農薬の安全使用

平成18年にポジティブリスト制が施行され、残留農薬基準の規制が強化されています。

基準値を超えた農薬が残留した農作物の流通は禁止されます。農薬の使用基準を遵守するとともに、周辺作物へのドリフト（農薬飛散）に注意しましょう。

10 異品種の混入防止

現在、全国的に異品種の混入が問題で、DNAの解析により米一粒からでも品種の判定ができるようになっています。

異品種が混入した米を出荷すると、産地のイメージを損ねることになります。

株間や条間などに生育している素性のはっきりしないような水稻があった場合には抜き取るなど、異品種混入を防ぐ管理に心掛けましょう。

次号は7月28日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。

**6月1日～8月31日は
農薬危害防止運動期間です**

- 近隣住民・周辺環境に配慮しましょう
- 農薬散布準備、作業中・後の事故に注意しましょう
- 農薬の保管・管理は適切にしましょう

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制（農薬使用基準等）等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報 第4号 畑作物

発行日 平成23年 6月29日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ（電話 0197-68-4435）

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/>」

- 小麦：**間もなく収穫適期を迎え、刈り取りが始まります。子実水分を確認し、適期刈り取りに努めましょう！また、倒伏圃場や品質に問題があるものは刈り分けし、良質な小麦に混入しないよう注意しましょう。
- 大豆：**降雨により滞水しないよう、排水対策を確認しましょう。中耕は初期除草剤（土壌処理剤）の効果がなくなり、雑草が発生し始めてから行いましょう。培土は倒伏防止や、根系への酸素供給などに効果があります。収穫時に土を噛み込まないよう培土の高さは一定になるよう作業を行いましょう。

1 大雨に伴う事後対策

- （1）梅雨に入り、一部地域で大雨による被害が発生しています。冠水した地域では速やかに圃場の排水を図り、圃場が乾き次第、明渠や排水溝の掘り下げ、中耕培土などの作業を行ってください。
- （2）小麦で穂先まで冠水した圃場や倒伏した圃場については、刈り分け作業を行ってください。
- （3）大豆では茎疫病の発生が懸念されますので、冠水した圃場では薬剤散布を実施してください。

2 小麦

（1）収穫作業前の事前準備

- ア コンバインや乾燥機などの点検整備や清掃を事前に行いましょう。
- イ カントリーエレベータや共同乾燥施設を利用して乾燥調製を行う場合は、受け入れ時間や荷受け水分を前もって確認しておきましょう。
- ウ 品質低下を防ぐために、事前に倒伏圃場や赤かび病の発生状況を確認し、どの順番で刈り取りを行うかチェックしておきましょう。

（2）収穫作業の注意点

- ア 成熟期になったら、子実水分を確認し、概ね30%以下になったら速やかに刈り取りを行いましょう。
- イ 曇りや雨の日は子実水分の低下が滞りますが、晴天には1日に2～2.5%程度低下します。
- ウ 普通型コンバインでは35%前後から収穫が可能です。
- エ 降雨等で倒伏がひどい圃場や赤かび病等で品質に問題のありそうな場合は、刈り分けして良質な小麦に混入しないよう注意しましょう。

※ 高水分小麦の収穫について

最近では自脱型コンバインの性能が良くなり、水分の高い小麦を収穫できるものもあります。しかし水分が高いと、収穫時に粒がつぶれたり、乾燥時に退色粒が発生したりする危険性があります。やむを得ず高水分での収穫を行う場合には、作業速度や回転数を抑え、丁寧な作業を行い、刈り取り後はできるだけ早く（1時間以内）乾燥作業に入りましょう。

（3）乾燥について

収穫された麦をそのまま長時間放置すると、変質し異臭麦や熱損傷が発生します。刈り取り後はできるだけ早く乾燥機へ搬入しましょう。

乾燥機的能力にあわせて収穫作業をすすめ、速やかに乾燥を行いましょう。

- ア 送風温度は子実水分が高いほど低く設定します。子実水分35～30%では送風温度40℃以下、子実水分30%以下では送風温度45℃以下とします。
- イ 高温で急激に乾燥すると、熱損傷や退色粒が発生する場合があります。
- ウ 水分が高いほどテンパリング時間は短く設定します。(子実水分30%前後では1時間以内)
- エ 乾燥機への張り込みは循環型乾燥機では容量の7割程度、平型では堆積の高さを20cm程度に抑えましょう。
- オ ビンやサイロに一時貯留する際は、水分が17～18%程度になるまで1次乾燥してから貯留し、3～4日以内には仕上げ乾燥を行いましょう。仕上がり水分は12.5%以下です。

3 大豆

(1) 概況

今年の大豆の播種作業は概ね順調に行われました。出芽揃いも良く生育は概ね順調です。

(2) 排水対策の確認

大豆の生育初期は梅雨の時期に重なります。降雨後の滞水により湿害や茎疫病などの病害が発生しないよう、畦溝と排水溝との連結、明渠や水尻にゴミなどの詰まりや崩れがないかの確認、排水口（フリードレン下部）の掘り下げなど、圃場内排水を促進するよう努めましょう。

(3) 中耕・培土

- ・ 中耕培土は、大豆の3葉期に1回目を実施することが一般的ですが、初期除草剤（土壌処理剤）の効果がなくなり、雑草が発生し始めたら早めに行いましょう。
- ・ 培土は収穫時に土を噛み込まないよう高さを揃え、根元まで土がかかるように行いましょう。

〈中耕培土の効果〉

- ア 雑草防除
- イ 倒伏防止
- ウ 土壌の通気性を良好にし地温を上昇させ根の機能を向上させる
- エ 発根を促進し、根群を発達させる
- オ 土壌の排水を良好にする

(4) 大豆バサグラン液剤

「大豆バサグラン液剤」は、大豆生育期に処理できる広葉雑草対象の除草剤ですが、利用の際にはいくつか留意する点があります。

- ・ 大豆の品種によっては薬害を大きく受ける場合があります。
- ・ 広葉雑草の光合成を阻害する作用を持っています。晴天が続くときに散布することで、効果的に使用することができます。
- ・ 水稲用のバサグラン液剤は使用できません。必ず大豆バサグラン液剤を使用してください。
- ・ アカザ科、ヒユ科、トウダイグサ科には効果が劣るので、これら雑草の優先する圃場では使用を避けます。
- ・ 剤の特性をよく理解し、適正に使用してください。

★除草剤は、発生する草種を確認し、効果のある剤を遅れずに散布しましょう！

次号は7月28日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。

**6月1日～8月31日は
農薬危害防止運動期間です**

- 近隣住民・周辺環境に配慮しましょう
- 農薬散布準備、作業中・後の事故に注意しましょう
- 農薬の保管・管理は適切にしましょう

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農業使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報 第4号 野菜

発行日 平成23年 6月29日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4435)

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

- ◆施設果菜類 換気の徹底、適切な肥培管理・水分管理と病虫害防除を！
- ◆露地きゅうり 生育に応じた整枝・摘葉管理と病虫害防除を！
- ◆雨よけほうれんそう 天候の変化に応じた適切な管理を！
- ◆露地葉茎菜類 病虫害防除の徹底と計画的な作業により良品出荷を！

1 生育概況

- (1) 施設果菜類は順次収穫が行われています。早熟作型のきゅうりは概ね順調ですが、一部で成り疲れやうどんこ病等の病害の発生がみられています。雨よけトマトの収穫開始は例年より1週間程度遅れたほか、灰色かび病の発生がみられています。ピーマンの生育は概ね順調ですが、アブラムシやアザミウマの発生がみられています。
- (2) 露地果菜類の定植は終了しました。露地きゅうりや露地ピーマンは定植後の乾燥により生育が停滞したほ場が一部でみられました。
- (3) ほうれんそうの生育は概ね良好ですが、強風や乾燥によるとみられる葉先枯れが各地で発生しているほか、ケナガコナダニの被害や萎凋病等による立ち枯れ症状も見られています。
- (4) キャベツは例年より1週間程度遅れて県北部でも収穫が始まりました。定植作業や生育は順調ですが、ナモグリバエ、コナガの発生がやや多くなっています。レタスは平場地帯で出荷が終盤となり、県北部、高冷地からの出荷が始まっています。ナモグリバエの発生は概して少なめですが、高温・乾燥傾向により活着や球の肥大が緩慢な状況が見受けられます。

2 大雨に伴う事後対策

- (1) 6/23からの断続的な大雨により、茎葉の損傷、冠水被害が発生しています。傷んだ茎葉や果実は摘除し、茎葉に泥土が付着している場合は動力噴霧機により水をかけて洗い流すとともに、品目ごとの防除指針に従って殺菌剤を散布し、病害の発生・拡大を未然に防止します。
- (2) 圃場に滞水している場合は、ポンプなども活用して速やかに排水してください。排水後、圃場作業が可能になったら畦間の中耕を行って土壌中に空気を送り、根の活性化に努めます。必要に応じて液肥を薄い倍率でかん注または葉面散布し、草勢回復を促します。
- (3) 今後も大雨に備えて、排水溝の整備・点検を行います。特に、圃場外からの侵入水を防止するため、圃場やハウスの周囲にあらかじめ排水溝を設けておきましょう。

3 技術対策

- (1) ハウス果菜類の管理

ア 雨よけトマト

雨よけ栽培では、収穫開始時期を迎え草勢のバランスを崩しやすい時期に入ります。着果量や

生長点付近の状態（生長点の大きさ、葉色、葉の巻き具合、茎の太さ）を確認しながら、適切な追肥やかん水により草勢を維持することがポイントになります。つる下げ作業も、一気に下げてしまうと極端に草勢を落としますので、こまめに行うようにしましょう。

特に、6月中旬の高温乾燥時期に水不足から生理障害、草勢低下を引き起こしている事例が見受けられますので、天候に応じたかん水施肥管理を行って下さい。

また、降雨とともに灰色かび病や葉かび病の発生が多くなってきますので、曇天時でもこまめに換気し、かん水は晴れた日の午前中に行うようにして、できるだけハウス内の湿度を高めないようにします。曇雨天時のわき芽かき作業は、病気を伝染する場合がありますので、晴天時に作業するようにして下さい。薬剤防除は灰色かび病や葉かび病、アザミウマ類、アブラムシ類の防除を基本とした薬剤を選定し適期防除に努めます。

イ 雨よけピーマン

4本仕立ての整枝法は、第10分枝まで側枝3～4節摘心、第11分枝以降は2節摘心が基本です。側枝を伸ばして着果数を多くすると草勢が低下しやすくなるので、株の下まで光が当たるように側枝の摘心を行います。

特に「京鈴」は、収穫や整枝作業が遅れないようにし、かん水と追肥は少量多回数を基本に行い、草勢を低下させないよう管理に努めます。

また、圃場への浸水や多かん水により株元が過湿となると疫病が発生しやすく、乾燥してくると尻腐果の発生が目立ってきますので、pFメーターを目安として水分管理を行うとともに、今後は株元を乾かすような管理を心がけましょう。

一方、病害は灰色かび病が発生しやすい時期です。雨よけトマト同様こまめに換気を行いハウス内の湿度を高めないようにします。害虫は高温とともにアザミウマ類やハダニ類が多発してきますので、アザミウマ類は花の内部を、ハダニ類は葉の裏側をよく観察し適期防除に努めます。

ウ 夏期高温期の昇温抑制対策

夏期高温に備え遮光幕や塗布型遮光剤を利用した昇温抑制対策の実施を検討しますが、資材の種類により効果の持続性に差があるので考慮して利用してください（下図参照）。

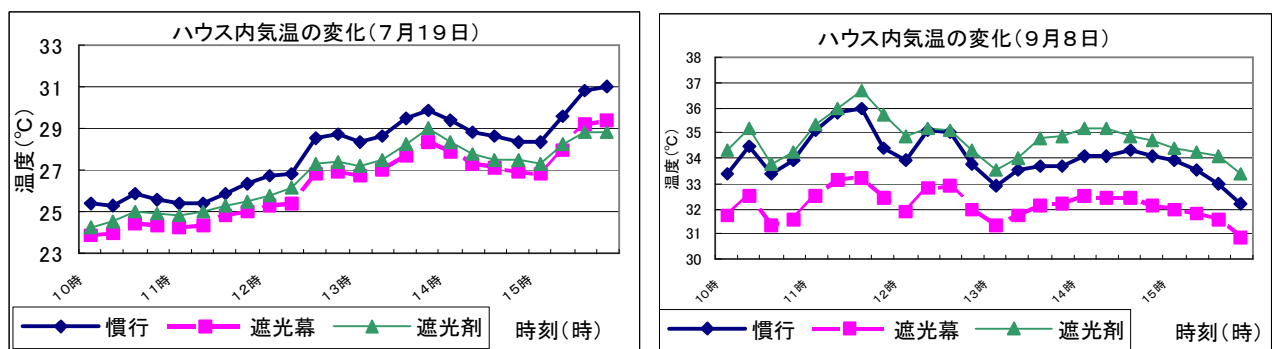


図 遮光幕及び塗布型遮光剤の温度抑制効果(農業改良普及センター実証結果より抜粋)

- 備考) 1. 塗布型遮光剤は平成18年6月19日に吹き付けし、遮光幕は同年6月29日にハウス一面を被覆した。
 2. 遮光幕は長期間にわたり安定して温度抑制効果が高い。一方、塗布型遮光剤は吹き付け1ヶ月間位までの効果は高いが、処理約3ヶ月後には効果はみられなくなった。

(2) 露地きゅうり

本格的な収穫を迎える時期となりました。収穫量に応じた追肥とかん水で草勢を確保します。特

に乾燥気味の圃場では、かん水や敷きわらなどで土壌水分の保持を図ります。また、1本仕立ての場合の生育中期～盛期における基本的な整枝、摘葉管理は下表を参考に行います。

ただし、品種や草勢により管理技術は多少異なりますので、あくまでも目安としてください。

表1 生育中期～盛期の整枝、摘葉方法（例）

	子づる	孫づる	整枝のポイント	摘葉のポイント	その他
上段	1節摘心	半放任とし、混み合った部分のみ摘心する	1. 親づるは、生育が順調な場合は支柱の肩の部分で止めるが、上段の子づるの発生が悪い場合、発生が緩慢な品種、親づるの心が小さい場合は遅く止める	1. 台木や穂木の子葉は摘除する 2. 病葉や老化葉を優先的に摘除するが、子づる、孫づるの生長点を覆っている葉を株当たり2～3枚/回を目安に除去する	放任枝とネット沿いに発生した子づるはテープナーでしっかり止めるが、それ以外の枝は誘引せずきゅうり全体に光が当たるよう樹を立体的に仕上げる
中段	2節摘心	1節摘心 ただし、草勢が弱い場合は早止めしない	2. 親づるの摘心後、草勢維持のため放任枝を2～3本残す。作業しやすいように腰～肩の範囲に子づるを張らせる。中段の子づるは収穫後1節残して切り戻す	3. 膝から下は摘葉し、通風を良くする 4. 親づるの摘葉は親づるの摘心後1ヶ月間を目安に終了する	
下段	1節摘心	1節摘心	3. 膝から下の子づる、孫づるは収穫後親節から切り戻す		

※下段：～10節程度。中段：11～20節程度。上段：21節～

2本仕立ての場合は、主枝8～10節から発生する側枝を、1本伸ばします。それ以外の主枝10節までの側枝は1節摘心とし、主枝11節以降は2節摘心または半放任とします。

病害虫防除では、7月はべと病や褐斑病、炭そ病等の斑点性病害の予防に重点をおきます。

なお、斑点性病害は薬剤散布による防除だけでなく、圃場内への蔓延を防ぐため疑わしい病斑が見られたら積極的に摘葉しましょう。

(3) 葉菜類の管理

ア 雨よけほうれんそう

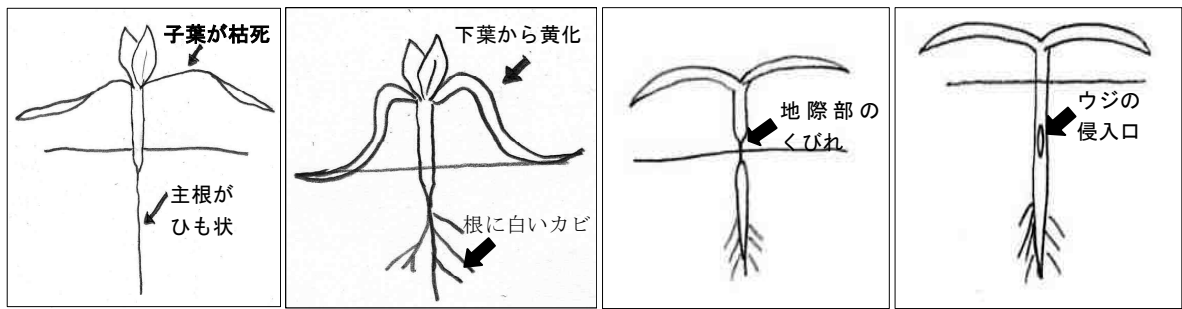
今後1か月は曇雨天の日が多く気温は並から高めと予想されています。つま面のビニール除去や遮光資材等の利用といった暑さ対策を徹底するとともに、遮光のしすぎによる徒長にも注意しましょう。

ほうれんそうの生育には厳しい時期となりますので、各産地で選定している夏播き用の品種を利用して、必要に応じて生育中のかん水も行いましょう。

地上部が萎れる原因は病害によるものだけではありません。高温障害、土壌病害虫等の判断方法は下図を参照してください。

また、圃場内へ雨水が流入したりハウス内が過湿になることがないように、圃場周囲の排水対策を確認しましょう。

この時期はべと病が発生しやすく、べと病に抵抗性のある品種でも発病する場合があります。ハウス内が過湿にならないよう換気に努めるとともに、株間を広くして風通しを良くし、被害株は随時抜き取り処分します。例年発病が多い圃場では、予防散布を徹底しましょう。



根腐病の症状

萎凋病の症状

高温障害の症状

タネバエによる被害

図2 ほうれんそう生育初期の萎れの原因の判断方法

イ キャベツ

ヨトウガの発生が増えてくる時期を迎えています。定植時の処理剤の利用を徹底するとともに、防除が遅れないように注意しましょう。コナガは薬剤抵抗性が発達しやすいので、系統の異なる薬剤によるローテーション散布を基本とします。

また、収穫を終了した圃場をそのまま放置すると害虫の発生源となりますので、収穫後は早めに圃場を整理しましょう。

結球期に降雨が続くと株腐病の発生が多くなります。結球開始期から株元にも十分薬液がかかるように薬剤散布を行ってください。圃場の排水対策についても確認しましょう。

ウ レタス

気温の上昇、降水量の増加にともない、すそ枯病、軟腐病などの腐敗性病害や灰色かび病の発生が多くなります。特に大雨が引き金になって、病害が多発する場合がありますので、気象情報などを参考にして、降雨の前後の防除に重点を置きましょう。また、これから定植する作型では、排水の良い圃場を選んで作付けするとともに、前作の残渣を圃場外に持ち出す、適湿のときにマルチを張り過湿を防ぐ、といった対策を心がけましょう。

高温期の過剰施肥は変形球や腐敗の発生を招きやすいので、施肥量を控えめにすると共に、適期に収穫して品質の向上に努めましょう。

エ ねぎ

生育に応じた追肥、土寄せにより葉鞘の伸長を促しましょう。特に早出しを狙う作型では、無理に土寄せすることで葉鞘が細くなりすぎないように注意しましょう。今後、気温の上昇、降水量の増加が予想されますので、圃場の排水対策を講じます。

また、大雨直後に土寄せを行うと軟腐病など病害発生の原因にもなりますので、圃場の水分が低くなってから行うなど作業のタイミングに注意し、状況に応じて効果のある薬剤で防除してください。

次号は7月28日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。

**6月1日～8月31日は
農薬危害防止運動期間です**

- 近隣住民・周辺環境に配慮しましょう
- 農薬散布準備、作業中・後の事故に注意しましょう
- 農薬の保管・管理は適切にしましょう

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農業使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報 第4号 花き

発行日 平成23年6月29日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4435)

携帯電話用QRコード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

- りんどう 昨年大発生したリンドウホソハマキなどの病害虫防除を徹底しましょう
- 小ぎく 白さび病、ハダニ等の病害虫防除を徹底しましょう
収穫前に次年度用の健全な母株を選抜しましょう
- 共通 梅雨に入り長雨、集中豪雨が懸念されますので大雨対策を講じましょう

1 大雨に伴う事後対策

梅雨に入り、一部地域で大雨による被害が発生しています。

- (1) 冠水した圃場ではすみやかに排水等対策を講じるようにしましょう。
- (2) 大雨や冠水により、茎が傾いたり、倒れた場合には早急に起こし、曲がりを軽減します。
- (3) 泥の付着や茎葉の折損により、病害が発生しやすくなりますので、被害茎葉を除去するとともに、泥を洗い流し防除指針に従って速やかに殺菌剤を散布します。
- (4) 茎葉が痛んだことにより生育が衰えたときは、草勢を回復させるために液肥等を施用します。

2 りんどう

(1) 生育概況

露地りんどうの生育は一部地域で若干遅れぎみですが概ね平年並みとなっています。極早生品種は7月上旬に開花する見込みです。

昨年大発生したリンドウホソハマキは成虫の発生、産卵がダラダラと続いているので、継続して防除が必要です。

(2) 圃場管理

ア ネット上げ

フラワーネットの最上段が草丈の7割程度の位置となるように、こまめに上げて茎の曲がりの発生を防ぎます。また、ネットに葉が引っ掛かり曲がることも多いので、随時圃場の見回りを行い、修正してください。

イ かん水・排水対策

前述のとおり大雨対策を講じて下さい。反対に雨が少なく乾燥気味の場合には、極度に乾燥する前に通路等にかん水します。

(3) 収穫・調製・出荷

ア 収穫

収穫は頂部の蕾が膨らみ色づいた頃が標準です。ただし、出荷先やバケツなどの輸送形態等により早めの収穫とする場合もありますので、事前に確認し仕向け先に合わせた切り前とします。

収穫は日中の高温となる時間帯をさけ、涼しい朝夕に行います。やむを得ず日中採花する場合は、収穫後直射日光に当たらないようにし、速やかに日陰に運び水揚げを行います。

株の消耗を防ぐため、必ず3本程度の茎を残し、残った茎は残花部を折り取って種子が作られることによる消耗を防ぎます。また、残花部の折り取りはアザミウマ類や、アブラムシ類の被害軽減へも効果的です。

イ 乾燥

雨天時に収穫した場合や朝露がついている場合は、扇風機や切り花乾燥機を用いて必ず乾燥させます。濡れたまま結束したり箱詰めしたりすると輸送中の蒸れなどによる品質低下の原因となります。

水を切るため逆さにして振ることは、茎が折れることに加え、花の蜜が花弁や葉などに付着して品質低下の原因となる場合があるので極力避けます。

ウ 選別

花段数、長さ、太さ、曲がりなどを基準に選別します。出荷規格を遵守し、信頼を落とさないようにします。病害虫の被害があるものは出荷しないことを基本とします。

また、暗い作業場での選別作業は病害虫痕の見落としなど品質の低下につながることで、作業者の目が疲れ作業性の低下や疲労が増大することとなります。りんどうの選別は花段数の確認等で目を酷使していますので、作業場全体と選別を行う作業台の明るさを十分確保します。

エ 調製・水揚げ

選別調製後、規格別に10本束にして水揚げを行います。

束とする10本の切り前や品質が揃うよう留意します。水揚げが長時間になると輸送中に蒸れることがあるので、極端に長い時間(24時間以上)の水揚げは控えます。

オ 箱詰め

各分会等で決められた方法で箱詰めを行います。輸送中に花束が動いて傷むことがないように確実に固定します。

(4) 病害虫防除

ア 葉枯病

これまでのところ下位葉部分に発生が見られていますが、発生は少なく推移しています。降雨により急激に増加し、中上位葉まで発生することが多いので、定期的に薬剤散布を行い、初期防除に努めます。薬剤散布は降雨前に行うことが理想ですので、気象情報を確認しながら効果的な防除をおこないます。



写真1 褐斑病

イ 褐斑病

7月下旬まで重点的な防除を継続します。早生種では収穫時期が近いので、葉の汚れに注意し、ダコニール1000+展着剤または、ストロビーフロアブルを使用します。葉枯病との同時防除とする場合はダコニール1000を選択します。

ウ アザミウマ類

蕾がふくらみ着色が始まる頃から蕾に侵入し、花弁を吸汁する被害が見られます。蕾の中にはいると薬剤がかからず、大量に増殖して被害が大きくなりますので、侵入を防ぐよう寄生前の予防に努めます。

アザミウマ類は雑草を含むあらゆる植物に寄生するので、周辺の作物の防除、雑草の処理を必ず行ってください。また、着蕾期前にシルバーの反射テープを支柱上部に張ることで、アザミウマの発生が大幅に減らすことが可能な現地事例があります。さらに、残花茎でのアザミウマの増殖を抑えるために、開花収穫後の残花茎は折り取り処分することが効果的となります。

エ ハダニ類

発生量は少なめですが、上位葉への寄生がみられますので注意して観察してください。また、高温・乾燥により発生が多くなりますので、発生密度が高くなる前に薬剤散布を行ってください。薬剤散布は散布量を十分に、葉の裏側を洗うように散布すると散布むらも無くなり効果が高まります。

なお、ダニ剤の使用においては同系薬剤の1年1回使用を基本に、抵抗性の発現を避けてください。

オ リンドウホソハマキ

昨年、大発生したことから、要注意害虫です。県中南部では5月末から成虫の発生や産卵が確認されています。県北や積雪の多い地域では県中南部よりも10日程度遅い発生となっています。発生ピークが判然とせずダラダラと発生が続いていますので防除を継続するとともに圃場をよく観察して下さい。

また、第2世代の発生が7月中～下旬に予想されますので、被害が散見される圃場では防除を徹底して下さい



写真2
ホソハマキの頂部食害



写真3
ホソハマキの茎への潜入痕

2 小ぎく

(1) 生育概況

6月に入り好天に恵まれ、生育は概ね順調です。白さび病、ハダニ類、アブラムシ、ナモグリバエの発生が確認されていますが、各地からの情報では、特に目立った発生には至っていません。

(2) 土壌水分管理

雨が少なく圃場が乾燥すると側枝の伸長不良や開花遅れの原因となるので、極度に乾燥する前に水を与えます。一方でりんどうと同様に梅雨期の長雨や夏秋期の集中豪雨に備えて下さい。

(3) 下葉取り

蕾が見える頃になったら、地際から2.5cm程度の葉を掻き落とし、通風をよくすることで、病害発生の抑制、収穫作業の効率化をはかります。

(4) 親株の選抜

次年度用苗の採穂に使用する親株は、収穫後では形質や病害感染が確認できないので、収穫が始まる前に次の点に留意して親株の選抜を行い、目印を付けておき、収穫後に親株とします。

ア 草丈が十分に伸び、草姿が優れる

イ 開花期が目的の時期に合う

ウ 病虫害（特にウイルス、ウイロイド）に侵されていない

エ 株の生育・充実状態が揃っている

なお、わい化病やキクえそ病に感染した株や、発生株周辺の感染のおそれのある株は必ず抜き捨てて圃場に残さないことが被害拡大防止の基本です。

(5) 収穫・調製

りんどうと同様に、切り前や作業時の環境に留意して収穫・調製を行います。

小ぎくでは、花卉が着色して爪立ちとなった頃が収穫適期となりますが、出荷時期や出荷先、品種によって異なる場合もあるので、仕向け先にあわせた適正な切り前を確認し、調製します。

(6) 病虫害防除

特に問題となる発生は確認されていませんが、発生前の予防、発生初期の防除を心がけてください。

ミカンキイロアザミウマ等が媒介するキクえそ病(TSWVによる)などのウイルス病が見られる

ので、アザミウマ類等の害虫防除を徹底します。圃場内外の雑草が各種害虫の増殖源となるので、雑草防除も必ず行ってください。

(7) 病害株の抜き取り

キクに発生するわい化病（キクわい化ウイルス）、キクえそ病（TSWV）に感染した株は薬剤散布などで治療ができないことから、健全株への伝染源や、母株とすることでの翌年の栽培への発病株の広がり等の原因となるため、見つけしだい抜き捨てることを徹底してください。

3 その他花き

(1) トルコギキョウ

生育に応じてかん水を控えて締まった草姿を目指します。また施設の温度、肥培等の管理を適正に行い、生育量確保を図るとともに、生育障害発生を抑制します。

(2) アルストロメリア

秋の開花を充実するためには夏期間は収穫を休み、株充実のため花蕾摘除、葉芽・枯れ茎の整理を行います。品種によって量は異なりますが、夏期は肥料・かん水が過剰にならないよう少なめに管理し、地温を下げるために、遮光や地冷を行います。

また、株養成中にオンシツコナジラミが発生することがあるので、適宜防除を行います。

(3) コリ類

抑制作型では遮光を行って地温低下を図りますが、梅雨期等日照が少ない時期はできるだけ日照を確保するよう遮光率の低いものに換えたり、遮光資材をはずしたりすることも必要です。

(4) ストック

7月下旬が無加温作型のは種期です。育苗管理では、施設の気温上昇を抑制すること、苗の生育を揃えるため均一で適切な水分状態を保つことがポイントです。

気温上昇抑制のためには施設を遮光資材で覆うほか、育苗箱を直管やブロックなどで作ったベンチ等に置き、風通しをよくすることや、周辺に散水することなども有効です。ただし遮光資材は育苗後半や曇天時には、除去して徒長を防ぎます。

かん水は、一時に多量にかん水すると胚軸の徒長を招くので、少量ずつ回数多く行います。

八重鑑別は播種後3～5日の発芽揃い時、子葉展開時、定植直前の3回に分けて行います。

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農薬使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報

第4号

果樹

発行日 平成23年 6月29日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4435)

携帯電話用QRコード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

- ◆ りんごは、翌年の花芽形成を促進するため、適期栽培管理を進めましょう！
- ◆ ぶどうは、結実を確認のうえ、状況に応じた適切な摘房、摘粒を進めましょう。

りんご

1 生育状況

県内の定点観測調査結果によると結実率は平年並みとなっています。これは開花期間中が比較的天候に恵まれたためと考えられます。しかしながら、昨年の猛暑の影響により、花芽量にばらつきが見られ、園地によっては摘果によって選べる果実が少なくなることも考えられます。

果実の肥大(横径)は、開花期が平年より遅れたため、6月21日時点の県平均では平年の90%程度、概ね昨年並みとなっています(表1)。

表1 県内各定点園場における果実肥大(横径)状況(6月21日現在)

単位:mm

市町村	地区	つがる					ジョナゴールド					ふじ				
		本年(H23)	前年(H22)	平年	前年比(%)	平年比(%)	本年(H23)	前年(H22)	平年	前年比(%)	平年比(%)	本年(H23)	前年(H22)	平年	前年比(%)	平年比(%)
農研センター		32.6	36.5	37.6	89	87	31.8	37.0	38.8	86	82	31.5	32.5	35.3	97	89
岩手町	一方井	30.0	28.6	32.8	105	91	31.1	30.6	33.8	102	92	28.7	28.7	30.7	100	93
盛岡市	三ツ割	31.3	34.5	36.9	91	85	32.7	33.7	37.9	97	86	27.7	30.1	33.9	92	82
紫波町	長岡	32.1	33.0	39.0	97	82	30.8	36.5	39.7	84	78	32.5	32.8	34.4	99	94
花巻市	中根子	36.4	37.5	37.4	97	97	35.7	39.0	41.1	92	87	33.5	33.4	34.7	100	97
北上市	立花	36.3	36.9	41.0	98	89	36.8	35.0	43.0	105	86	33.9	31.3	37.5	108	90
奥州市	前沢区稲置	33.6	38.0	41.2	88	82	34.0	39.5	42.1	86	81	36.5	37.0	37.5	99	97
	江刺区伊手	33.9	33.4	35.7	101	95	31.0	32.2	36.8	96	84	26.6	27.8	32.0	96	83
一関市	花泉町金沢	37.3	33.2	38.5	112	97	35.8	35.8	39.9	100	90	33.0	30.1	34.0	110	97
	大東町大原	33.8	33.7	36.5	100	93	34.8	32.4	37.3	107	93	32.2	30.5	33.2	106	97
陸前高田市	米崎	37.6	31.5	38.5	119	98	35.4	32.3	37.7	110	94	32.9	27.0	34.5	122	95
宮古市	崎山	32.5	26.2	34.7	124	94	33.4	27.5	36.5	121	92	32.5	26.2	33.4	124	97
岩泉町	乙茂	31.2	28.7	35.0	109	89	36.1	30.9	34.3	117	105	28.3	27.0	32.2	105	88
洋野町	大野下長根	27.8	26.6	28.6	105	97	29.6	25.7	28.9	115	102	26.2	27.8	26.7	94	98
軽米町	高家	29.8	29.5	32.6	101	91	30.8	31.0	34.4	99	90	26.6	26.7	28.8	100	92
二戸市	金田一	31.4	30.0	35.1	105	89	30.6	29.6	35.9	103	85	28.6	26.6	31.3	108	91
県平均(参考)		33.0	32.1	36.2	103	91	33.2	32.8	37.3	101	89	30.6	29.5	33.0	104	93

表2 暖候期の気温と花芽率

盛岡定点、盛岡アメダス観測点

年次	花芽率	6月			7月			8月			9月		
		平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低
2010	31.6	20.6	26.2	15.8	24.4	29.2	20.9	26.2	31.4	22.4	19.8	24.4	16.1
2002	49.7	17.4	22.7	12.8	22.9	27.1	19.5	22.3	26.5	19.1	18.5	23.9	14.2
2001	33.3	17.9	22.6	13.4	23.2	28.2	19.3	22.0	26.7	18.5	18.4	24.0	13.6
1999	42.1	19.2	24.9	14.3	23.1	28.2	19.3	25.4	30.5	21.8	20.3	24.9	16.2
1994	39.7	17.9	22.9	13.4	24.2	29.1	20.2	25.8	31.7	21.5	20.3	25.5	16.4
1989	46.5	17.3	22.7	12.6	22.0	27.1	18.1	24.1	29.5	19.9	18.6	23.0	15.1
1987	45.0	19.1	25.3	13.5	21.9	26.4	18.1	22.4	26.8	19.3	18.5	23.6	14.0
平年	60.6	18.3	23.5	13.8	21.8	26.4	18.1	23.4	28.3	19.6	18.7	23.6	14.6

過去 25 年間の盛岡定点の花芽率において、特に悪かった年次の6～9月の気温を平年値と比較すると、1987年を除き全ての年次で7月の気温が平年より高くなっています。7月は花芽形成期であり、その時期に気温が高く推移すると、花芽の形成に影響を及ぼす可能性があります。早期摘果や適正着果が大切です。

2 花芽分化と管理

繰り返しになりますが、7月に入ると、りんごは翌年の花芽分化が始まります(表3)。着果過多や日照不足、高温乾燥などが花芽形成を阻害する要因になりますので、(1) 早期適正着果、(2) 徒長枝の整理などによる日照条件の改善、(3) 防除による健全な葉の維持、(4) 適正な土壌水分管理、に努めましょう。

(1) りんごの果実は、摘果作業が遅れると小玉果となる可能性が高くなります。表4の摘果強度に留意して、仕上げ摘果および着果量の見直しを進めてください。結実量にばらつきはみられますが、次年度のためにも計画的に摘果を進めましょう。

(2) 摘果のポイント

ア 三角実や扁平果など果形の悪い果実、病虫害果、さびなどの傷害果の摘果。

イ 「ふじ」で果台が極端に長いものや短いものは、斜形果の発生割合が高くなるので、できるだけ摘果します。

ウ 「ふじ」では、途中で肥大の止まる果実が出てくるので、随時見直しを行います。

表3 主要品種の花芽分化開始時期

時期	7月上	7月中	7月下
品種名	王林		
	陸奥・つがる		
		ふじ・ジョナ	

表4 主要品種の摘果強度

品種名	摘果強度
	わい性樹
紅玉	4～5頂芽1果
ふじ、つがる、王林、さんさ、千秋	5～6 "
ジョナゴールド、陸奥、北斗	6～7 "

(3) 土壌水分管理

りんごの樹体にとって、土壌水分を適正に管理することが果実肥大、花芽の確保など健全な樹体の維持に有効です。

ア 乾燥対策

今後、夏季が高温、干ばつで経過する場合は、養水分の競合を避けるため草生を短く維持し、樹冠下に刈草やわら等でマルチします。また、畑地かんがい施設の整備が進められている地域では、適宜かん水を実施します。

イ 排水対策

降雨が続き、園地内が過湿となる場合、根部が障害を受けて樹勢が衰弱することがあります。園地内に水が停滞しないよう、溝を掘るなど排水対策を講じましょう。

3 樹相診断

樹相診断でりんご樹の栄養状態の良否を判断し、適正な肥培管理に活かしてください。特に「ふじ」の収穫時の果実品質は、今の時期の樹相の良否が大きく影響しますので、樹相診断を積極的に実施しましょう。

岩手県農業研究センターでは、平成21年度研究成果としてりんご「ふじ」わい性台木利用樹の簡便な樹相診断法を報告しています。簡便な樹相診断では、先端新梢の葉枚数を主要な調査項目とし、葉の縦径を補助的な調査項目とします。従来の先端新梢長を測る代わりに先端新梢の葉数を数えることで樹勢の判断が可能です。また、葉の縦径を測ることで葉色の測定に代えることができます。物差しだけで簡単に行えますので、実践してみてください。

表5 「ふじ」わい果樹の簡便な樹相診断基準

調査項目		調査時期	基準値
簡便な診断項目	先端新梢の葉枚数	7月上旬	11～14枚
	葉の縦径		7～8cm
従来の診断項目	先端新梢長		20～30cm
	葉色カラーチャート値		4.5～5.5

(1) 強樹勢の対策

新梢長が長く、葉色も緑色が濃い強樹勢樹については、夏季剪定の実施、冬季剪定時は側枝の間引きを中心として結果枝を多めに残す、施肥量を減じるなどして樹勢を落ち着かせるよう管理します。

(2) 弱樹勢の対策

新梢の伸長が短く、葉色が極端に淡くなるなど弱樹勢樹については、着果量を減らし、冬季剪定で花芽の間引き、延長枝の切り戻し等を積極的に行い、施肥量を増やすなど樹勢の回復を図ります。

表6 「ふじ」わい化樹の樹勢の目安

樹勢	先端新梢の葉枚数 (先端の新梢長)	葉の縦径 (葉色)	新梢停止期	樹相
強勢	17枚以上 (40cm以上)	8cm以上 (カラーチャート5.5以上)	7月中旬以降	栄養成長が盛んで繁茂し、樹幹内部は暗い。
適正	11～14枚 (20～30cm)	7～8cm (カラーチャート4.5～5.5)	6月下旬～ 7月上旬	栄養成長と生殖成長バランスがとれている。
弱勢	10枚以下 (20cm以下)	6.5cm以下 (カラーチャート4以下)	6月中旬以前	栄養成長が弱く、再生産力の弱い樹相。

4 病虫害防除

今後気温が上がり、降雨が続くようになると、斑点落葉病や褐斑病、輪紋病、炭そ病等の感染が増えてきます。また、シンクイムシ類やハダニ類などの害虫も発生してきます。

病虫害防除所の発生予察情報や防除情報を参照し、園地の発生状況をよく観察して、適期防除に努めてください。

ぶどう

1 生育状況（表7）

定点観測地点（紫波町赤沢）の「キャンベル」の調査結果によると、発芽、展葉はやや遅れたものの、6月以降は比較的天候に恵まれたため満開期は6月16日と概ね平年並みとなりました。

新梢長、節数についても概ね平年並みとなっています。また、房長は平年より小さめとなっています。

表7 ぶどう(キャンベルス・アーリー)の生育状況(観測地点:紫波町赤沢)

調査年次		生態			6月25日時点での生育		
		開花期			新梢長 (cm)	節数 (葉数)	房長 (cm)
西暦	元号	開花始	満開期	落花期			
2011	23	6/14	6/16	6/23	104.8	13.5	11.1
平年差・比		-1	-2	1	108%	107%	90%
前年差・比		1	0	4	88%	92%	94%
2009	21	6/5	6/9	6/14	121.7	16.9	14.3
2010	22	6/13	6/16	6/19	119.6	14.7	11.8
平年(平均)値		6/15	6/18	6/22	97.4	12.6	12.3

2 管理の要点

(1) 摘粒

・果粒肥大を促し、裂果や病害の誘発を防ぎ、着色向上など品質確保に不可欠な作業です。

満開後 30 日以内に終了するのが目標です。

・「キャンベル」、「ナイアガラ」、「サニールージュ」は1果房当たり 70 粒程度とし、二つ折りになる状態を目安に行いますが、縦に 1～2 列（2列の場合は表側 1 列と裏側 1 列）摘粒する方法や段抜きなどの簡便法もあります（図2）。

・「紅伊豆」、「ハニーブラック」は1果房当たり 30～40 粒、「安芸クイーン」は 25～30 粒とします。最上位に 4 粒程度着粒させ、下部に行くほど徐々に着粒数を減らし、下端は 1 粒となるようにします（図3）。

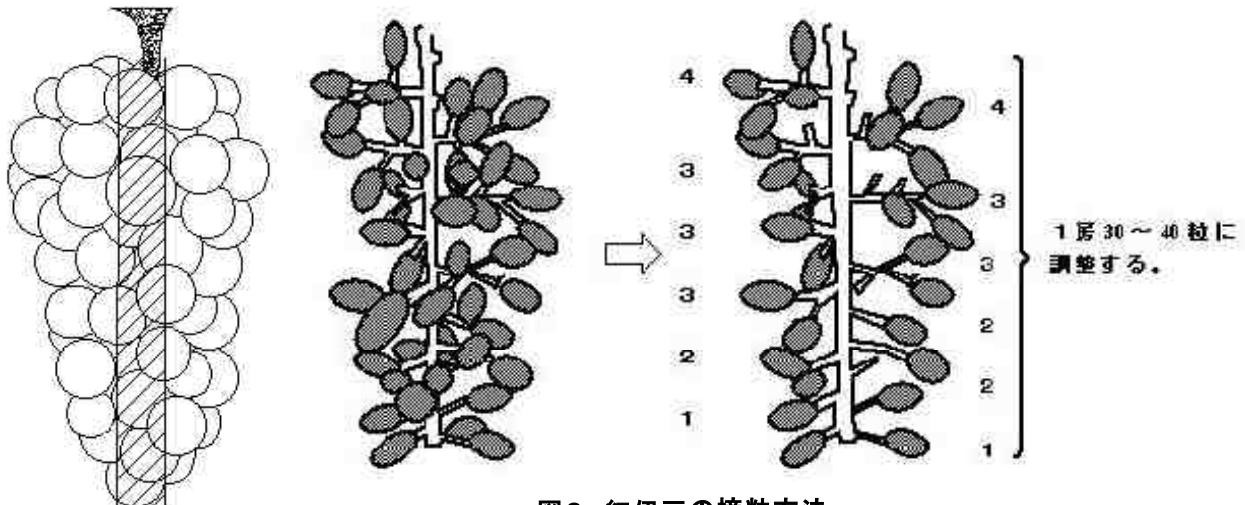


図2 紅伊豆の摘粒方法

図1 「キャンベル」、「ナイアガラ」等の摘粒方法

（2列抜く場合は、表と裏を1列ずつ抜く）

(2) 袋掛け

- ・時期は7月上旬以降できるだけ早い時期が良く、摘粒などが遅れる場合には、晩腐病の一次感染期を逃さずに防除し、その後、袋かけを行うことが大切です。

(3) 摘房

- ・「キャンベル」では、表8を参考に葉数に応じて着房数を決定してください。最終的には一坪(3.3m²)当たり、新梢数20本、着房数27~30房が基準となります。樹勢が弱い場合は、1房当たりに必要な葉数を参照に、葉数に応じて着房数を制限して下さい。
- ・「紅伊豆」、「ハニーブラック」、「安芸クイーン」などの大粒種では、1新梢1房が基本です。強い新梢は、1新梢2房着果させておき、着色期前までに1房に摘房していきます。弱い新梢は、早期に1新梢1房とし、同様に着色期をめどに、伸長の程度に合わせて2~3新梢1房に調整していきます(図4)。
- ・着色期以降も着果が多いままだと、着色や糖度上昇が遅れ収穫も遅れる他、樹体の凍寒害の危険が増しますので十分に注意してください。

表8 「キャンベル」の収量構成要素

品種	新梢数 (本/坪)	着房数		必要な葉数	目標収量 (kg/10a)
		(房/坪)	(房/本数)		
キャンベル	20	27~30	1.35~1.5	1房:12~16枚	2200
				2房:17~22枚	

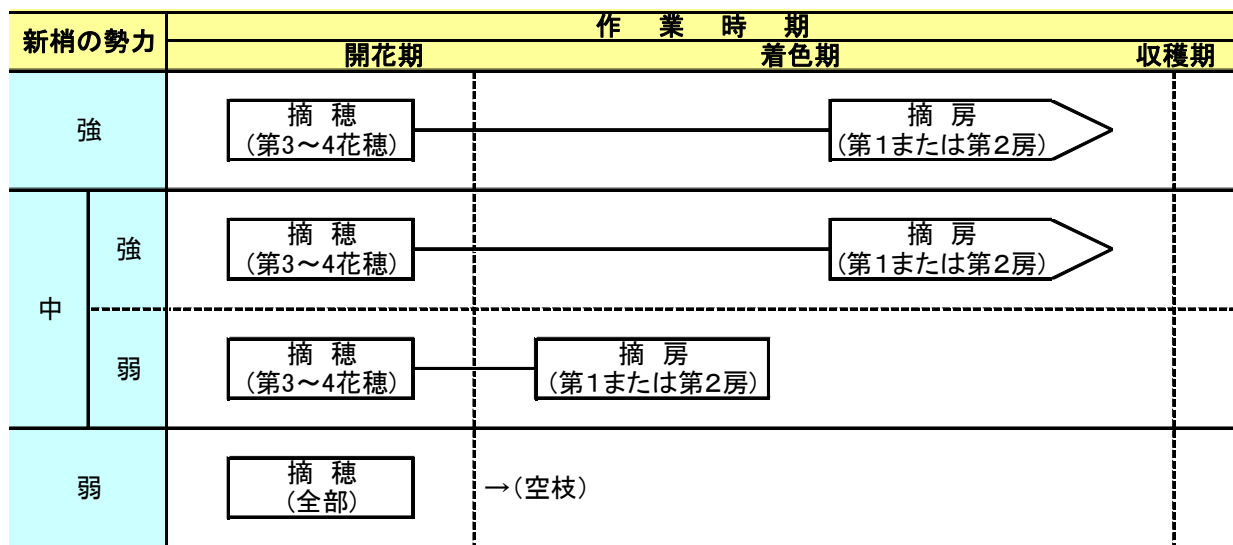


図3 「紅伊豆」の新梢の強弱と摘穂・摘房時期

3 病虫害防除

- (1) 病虫害の発生状況に合わせて防除を実施します。
- (2) 薬剤によっては、果粉の溶脱、果面の汚れなど品質を損ねることがありますので、薬剤を選択する際は注意してください。

次号は7月28日(木)発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。

**6月1日~8月31日は
農薬危害防止運動期間です**

- 近隣住民・周辺環境に配慮しましょう
- 農薬散布準備、作業中・後の事故に注意しましょう
- 農薬の保管・管理は適切にしましょう

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農業使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報 第4号 畜産

発行日 平成23年6月29日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4435)

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/>」

■牧草の放射性物質 モニタリング検査結果	遠野市、一関市、陸前高田市、平泉町、藤沢町、大槌町、滝沢村の7市町村の一部エリアで牧草の利用自粛等要請を継続しています。
■牧草	2番草の刈り取りは適期に、刈り取り高さに気をつけて収穫しましょう。 エゾノギシギシの防除は、結実前に行いましょう。
■飼料用 トウモロコシ	飼料用トウモロコシの獣害(クマ)対策の準備をしましょう。

1 牧草の放射性物質モニタリング検査結果

遠野市、陸前高田市、平泉町及び大槌町において、6月17日(金)に牧草の放射性物質の確認調査を実施したところ、前回調査したエリア以外の牧草は、乳用牛及び肥育牛に対する暫定許容値を下回り、牧草の利用自粛及び放牧見合わせの要請が6月21日(火)に解除されました。

○遠野市、一関市、陸前高田市、平泉町、藤沢町、大槌町、滝沢村の7市町村の一部エリアでは、牧草の利用自粛等の要請を継続しています。今後実施される調査において、再生草の放射性物質が3回連続で暫定許容値を下回ることで利用自粛の要請が解除されます。

詳しくは、以下のURL(岩手県ホームページ)をご覧ください。

<http://www.pref.iwate.jp/view.rbz?cd=32986>

2 牧草

(1) 草地管理(2番草)

ア 刈り取り時期

2番草の刈り取りは、1番草収穫後から40~55日が目安です。土壌及び牧草の水分が高く、気温の高いこの時期は、牧草が蒸れ上がり易いので、早めの刈り取りに努めます。

イ 刈り取り高さ

梅雨明け後は、日射量が急に多くなります。刈り取りの高さが極端に低い場合、地面の温度が上がり過ぎ、根が高温障害を受けやすくなります。刈り取りの高さは、10~15cmとしましょう。

ウ 追肥

施肥量は10aあたり窒素成分で5kgを目安とし、刈り取り後はできるだけ早く行います。この時期の尿散布は、肥料焼けを防ぐため、曇天や降雨前後に散布しましょう。

(2) 牧草地の強害雑草対策(エゾノギシギシ)

エゾノギシギシは、種子と根茎により繁殖し、1株あたりの種子数が多く(3~4万粒)、土中の種子も長期間発芽能力を有します。このため、「結実させない」、「根茎を切断しない」ことが重要になります。

薬剤による除草は、チフェンスルフロンメチル剤の茎葉散布が有効です。ギシギシの葉が展葉してから散布します。散布後21日間は採草及び放牧ができないこと、クローバーに薬害が出やすいので、クローバーの占有率が高い圃場での使用を控えることに留意下さい。

農薬を使用する前には必ず、ラベルを確認しましょう。

3 飼料用トウモロコシの獣害（クマ）対策

(1) 飼料用トウモロコシのクマ被害防止

近年、県内においてクマによる飼料用トウモロコシの食害が多数発生しており、クマの圃場への侵入対策として電気柵の設置が効果をあげています。バンカーサイロに対する食害対策にも効果があります。

クマは一度味をしめた作物やその場所に対して強く依存するため、近隣圃場での被害発生情報があれば、未然に防止するためにも電気柵を設置することをおすすめします。

(2) 電気柵の設置

電気柵は電気ショックを経験させて、動物の心理的バリアーを構築することにより圃場への侵入を防ぎます。物理的な柵ではないため、使用方法により効果に差が出るので、以下の基本技術を徹底しましょう。

ア 設置時期

クマはトウモロコシの子実を好んで、圃場内へ侵入します。トウモロコシの出穂前（7月下旬～8月上旬）には設置を完了します。

イ 漏電の防止

アースを確実に設置します。電気柵は草などに触れて漏電すると効果が劣り、侵入の一番の原因となります。こまめに草刈りを行うか、電牧設置場所の周囲に除草剤散布を行いましょう。また、設置後も定期的なチェックを行い、漏電による電圧低下を防止しましょう。

ウ 設置方法

2段張り、3段張りの事例がありますが、クマは地面を掘って侵入するが多いため、1番下の電気柵は地面から20cmの位置に設置します。また、圃場のくぼみの部分はポールを増設します。より効果を高める方法として、電気柵の外側にもう1つの電気柵（トリップ柵）を設置する方法があります。トリップ柵はメイン電気柵の外側30～50cm、地面から20～30cmの高さに1本設置します。（写真参照）

(3) 設置費用

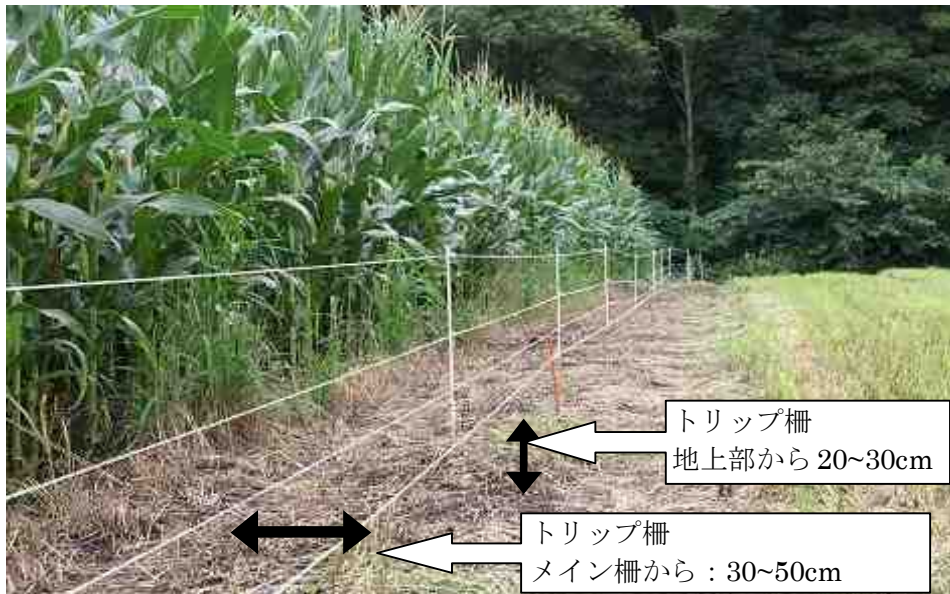
ア 外周600mの場合（2ha前後）

[電牧器（バッテリー収納型）・グラファイポール・ポリワイヤー3段、クリップ] で10万円前後

イ 外周300mの場合（1ha未満）

[電牧器（電池型）・グラファイポール・ポリワイヤー3段、クリップ] で6万円前後
支柱等、自己調達可能な資材を使用することで設置コストはさらに低減可能です。

電気柵設置に係る詳細と相談は最寄りの農業改良普及センターまでお問い合わせください。



写真：飼料用トウモロコシ畑に設置された電気柵（トリップ柵付き）（県内事例）

次号は7月28日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。

**6月1日～8月31日は
農薬危害防止運動期間です**

- 近隣住民・周辺環境に配慮しましょう
- 農薬散布準備、作業中・後の事故に注意しましょう
- 農薬の保管・管理は適切にしましょう